

ハケ岳総合博物館 ☎73-0300

神長官守矢史料館 ☎73-7567

博物館情報

昼間の星を見る会

日時 3月8日(日) 10時～11時
場所 北部中学校天体ドーム(北部生涯学習センター)
定員 20名(要申込)
料金 参加無料
その他 雨天曇天の場合は中止



博物館活動発表展イベントデー

日時 3月14日(土) 9時～16時
場所 ハケ岳総合博物館
料金 無料



皆既月食観察会

日時 3月3日(火) 18時30分～20時30分
場所 ハケ岳総合博物館
内容 約3年半ぶりに観察しやすい時間帯に、皆既月食が起こります。満月が欠け始め、赤い月へと変化する様子を観察しましょう。
定員 20名(要申込)
参加費 無料
その他 雨天曇天時は、晴天地からの中継映像を視聴。



2022年11月の皆既月食のようす(撮影:ハケ岳総合博物館)▲

定例イベントスケジュール

※申し込みは、前月20日(休館日の場合は翌開館日)から電話で受け付けます。
※イベントの詳細はホームページなどでご確認ください。

さきおりでランチョンマット

日時 3月7日(土)、8日(日)
10時～11時30分と
13時～14時30分
場所 ハケ岳総合博物館
対象 小学校高学年以上
定員 各回5名
参加費 400円(入館料別)
※要申込

星空観望会

日時 3月14日(土)
19時～20時30分
場所 北部中学校天体ドーム
(北部生涯学習センター)
定員 20名
参加費 無料
その他 雨天曇天の場合は中止
※要申込

古文書相談会

日時 3月22日(日)
10時30分～正午
※要申込、参加無料
※鑑定等は行いません。

★3月のプラネタリウム「衛星コンステレーション」

土日祝日の
10時30分～
13時30分～
※定員8名、要事前予約、
要通常入館料
※休止あり。
予約時にお確かめください。

尖石縄文考古館

Chino × Jomon



3月の休館日 2日(月)、9日(月)、16日(月)、
23日(月)、30日(月)

開館時間 9時～16時30分
(観覧は17時まで)

☎76-2270
E-mail togariishi.m@city.chino.lg.jp

考古館ホームページ

掲載されている以外の情報は
ホームページをご覧ください。

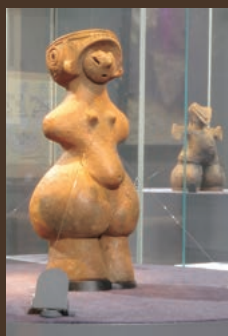
ギャラリートーク ～国宝「土偶」(縄文のビーナス・仮面の女神)の展示解説～

来館者の国宝「土偶」の解説を聞きたいというご要望に応えるとともに、茅野市の縄文文化の魅力を広く伝えるため、当館学芸員が展示室で解説を行います。

日時 3月21日(土)
13時30分～14時15分

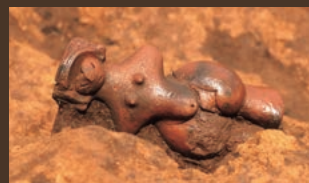
場所 茅野市尖石縄文考古館
展示室B

内容 国宝「土偶」(縄文のビーナス・仮面の女神)について、展示解説を行います。



土偶の基礎知識 ～縄文のビーナスと棚畑遺跡～

棚畑(たなばたけ)遺跡は、昭和61年(1986年)に、茅野市米沢埴原田の米沢工業団地の造成工事で発掘された遺跡です。この遺跡からは、縄文時代前期から江戸時代までの間、断続的に生活した跡が見つっています。特に、縄文時代中期(約5,000年前～4,000年前)については、国宝「土偶」(縄文のビーナス)をはじめ、膨大な量の優れた資料が出土しました。縄文時代の集落は、何軒かのイエが「お祭り」などに使う広場を中心にして環状に作られることが多いのですが、「縄文のビーナス」もその広場のなかの土坑(どこう)と呼ばれる小さな穴のなかに横たわるように埋められていました。



茅野市民館 Chino Cultural Complex 茅野市美術館 Chino City Museum of Art



開館時間 9:00～20:00 ※施設利用のある場合は22:00まで
図書室 9:00～19:00
TEL 0266-82-8222 FAX 82-8223
休館日 火曜日(火曜が祝日の場合、翌平日)、年末年始
住所 茅野市塚原1-1-1(JR茅野駅東口直結)



茅野市美術館 第4期収蔵作品展 響きあう一風景と記憶

開催中～3/29(日) 9:00～19:00
会場 常設展示室 観覧料 無料
※火曜休館

関連企画

学芸員によるギャラリートーク

3/15(日) 11:00～ 常設展示室
参加無料(申込みはいりません)

展示作家

〔洋画〕小堀二郎、田村一男、
矢崎博信、篠原昭登
〔彫刻〕大和作内 〔版画〕中林忠良
〔写真〕小林紀晴



茅野市民館
「劇場を楽しもう!」

シアターランポン公演「テリヤキ」

3/28(土) ①14:00 ②19:00◎
3/29(日) ③14:00★

ホール内に小劇場を特設します /
会場 マルチホール *特設会場

◎日本語字幕鑑賞支援サービスあり
★終演後、「アフターバックステージツアー」あり

チケット情報など
詳しくはWEBを
ご覧ください



小林紀晴《ONBASHIRA Chronicle / 1962 1986 1998 2004 2010 2016 2022 EIKO》2022年

新収蔵作品より

茅野市出身の写真家・小林紀晴さんは18歳から御柱祭を撮りはじめ、30歳から本格的に撮影するようになりました。「自分のものとも誰かのものとも判別がつかない過去の記憶、いってみれば『幻影』が見える瞬間がたびたびあった」といい、「一種の記憶の『レイヤー(層)』みたいなものといえる」と語っています。

その感覚を形にするため、本作では7回分の御柱祭の「里曳き」の様子を、デジタル技術を用いて重ね合わせています。幾重にも重なる画像から、人々の声、場の空気が、時代を超えて伝わってくるようです。

